

| | |
|-----|-----|
| 教科名 | 美術科 |
|-----|-----|

学校番号（23） 学校名（上石神井中学校）

○現状分析（日常の学習活動から見られる学習の定着状況）

| | |
|----|--|
| 1年 | 美術のはじまりについての講義を受ける姿勢や、色彩構成の基礎的な実技への取組から、生徒のほとんどの表現や鑑賞の学習に高い関心みられるが、一部授業規律を守りつつ制作する姿勢を身に付ける必要のある生徒がみられる。素直に自分の感じたことを表すことができる一方、題材の意図に則って技能を生かして表現することに課題がみられる。 |
| 2年 | ピカソの表現技法の特徴を自身の作品に積極的に採り入れるなど、自身の発想を元に創意工夫しようとする意欲が高いため、発想・構想の段階で時間がかかってしまう生徒がみられ、進度に差がでやすい。完成した作品鑑賞の話合い活動の取組などから、グループワークを実施する基本的な姿勢がすでに身につけており、対話的に学びを深めることができる。 |
| 3年 | 仏像の特徴についてのワークシートへの取組などから、知識・理解を得ることに意欲的である一方、それをもとにしたオリジナルキャラクターづくりなどの制作では無難に作品をまとめる傾向にあり、時間内に作品を完成させられない生徒が見られる。自信をもって自分の発想を広げ、計画的に自身の進捗状況を管理するとともに、技術的にも挑戦する姿勢を養いたい。 |

○指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

| | 指導方法の課題分析 | 具体的な授業改善策 | 補充的・発展的な学習指導計画 |
|----|--|---|--|
| 1年 | <ul style="list-style-type: none"> 授業規律を守り、積極的に取り組む姿勢を継続させる必要がある。 生徒の意図を適切に表現させるために、基礎的・基本的な学習を定着させる必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 忘れ物をしない、時間を守って行動する、説明をきちんと聞くなどについて全体に呼びかける。 習熟度別に技術的な指導を板書で行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 個の発達状況に応じてできることから具体的な対策を生徒と相談して身につけさせる。 制作する上でのつまずきについて個別のアドバイスを実施する。 |
| 2年 | <ul style="list-style-type: none"> 発想や構想の段階で全体での活動を行い、生徒間の進捗の差が大きくなるようにする必要はない。 作品を制作するだけでなく、鑑賞の力を身に付けさせ学びを深めさせる必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ペアやグループでの発表や話し合い活動を通して発想を広げる時間をつくる。 自分が感じたことや考えを文章にまとめたり、話し合ったりする時間を増やす。 | <ul style="list-style-type: none"> アイデアスケッチの段階で補習を実施し、遅れている生徒の進捗状況を調整する。 美術作品を基に発展的な表現技法について感じ取らせ、制作に生かすように促す。 |
| 3年 | <ul style="list-style-type: none"> 創意工夫や新しい表現に挑戦しようとする積極的な姿勢を促す必要がある。 限られた時間内で完成させられるよう各自が見通しをもたせる必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> アイデアスケッチにコメントを書き入れ、よりよい表現へ再考を促す。 チェックシートを配布し、各自の制作進捗を自己管理させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 机間指導で構想についてアドバイスをしたり、発想を膨らませる前向きな声かけをしたりする。 机間指導で単純化したり、組み合わせたりといった残り時間に応じたアドバイスをを行う。 |